

令和4年度(令和3年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

企画部企画課

企画部長 山田 幸

整理No	主要事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
3-1	第7次総合計画推進事業	あり	C	第7次総合計画のテーマである「チャレンジ」を市報を始め様々な場面で使用することで将来の都市像を意識し事業を展開することができた。また、小中学生を対象に「未来のはんだ」をテーマにポスターコンクールを実施し、入賞作品を市報に掲載するとともに展示会を開催しPRをすることで、市民が未来のまちづくりについて考えるきっかけとなった。	終了	計画策定後初年度のみのものであるため終了とする。今後は、3か年実施計画の策定や庁内及び市民による評価等により総合計画を推進していく。
3-2	シティプロモーション推進事業	あり	C	専用サイトによる情報発信や市民ライターによる発信、日本酒飲み比べセットの開発などにより半田市の魅力を可視化することで、市のPRと市民の愛着醸成に資することができた。今後、マスメディアへの働きかけや若い世代をターゲットにしたプロモーション推進体制の強化など、より効率的な露出の方法について考える必要がある。	改善 推進	シティプロモーションは、すぐに成果があらわれるものではなく、継続して実施することで半田市のイメージ向上やまちへの愛着醸成につながるものである。本市のファンを増やし、将来的な定住人口を獲得していくため、ターゲットを絞った情報発信や西三河地域を対象にした情報誌を通じた広報などのインパクトある取組を実施していく。
3-3	ふるさと新発見事業	なし	C	成岩地区の取組み4年目としてこれまでに制作した「ならわまち歩きマップ」や「てらまちガイドブック」を活用し、ツイッターを利用したまち歩きイベントやお寺でのマルシェを開催した。また、成岩系ユーチューバーを公募し半年の活動を通して住民目線で成岩の魅力を発信してもらった。より多くの人に見てもらうための動画素材の選定や発信方法は改善の余地があるので、次年度以降の支援方法に反映させていく。また、令和5年度の重点期間終了に向け、住民が地区の魅力を認識し、自発的かつ継続して活動できるような支援策を実施していく必要がある。	統廃 合等	地域住民に向けた事業を、対外的なシティプロモーション事業と統合することで相乗効果を生み出していく。 マルシェなどを実施する意向がある団体に対し、運営のノウハウを伝授したり人的補助を行うことで自発的な動きにつながるよう支援していく。また、成岩系ユーチューバーの活動を引き続き支援することで住民が直接成岩の魅力に触れる機会を創出し、地域への愛着の醸成を図っていく。
3-4	広報推進事業	なし	C	ホームページは、関心度の高かった新型コロナウイルス感染者情報やワクチン接種に関する情報、地域振興券に関する情報を常に更新したことがアクセス数の増加に繋がった。また、市報の記事に対して関連したQRコードを添付し、ホームページに誘導したことも増加の要因となった。市報の満足度について、市民の方が読んで分かりやすい内容に編集したことやプレゼント企画など市民参加型の内容を盛り込んだ結果、満足度は目標値を達成した。	改善 推進	ホームページについては、引き続き、市民の関心度の高い情報を常時更新するとともに、市報や市公式ラインなどからホームページに誘導することによりアクセス数の増加に努める。 市報は、半田市が取り組んでいる事業やまちのトピックスなどを市報を活用して積極的に発信していくとともに、引き続き、読者に興味を持ってもらえる特集やユーモアある編集後記を作成することで、多くの人に読んでもらえる親しみのある市報を目指す。

整理No	主要事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
課等長	1次評価（令和3年度の総括評価）					
C	<p>第7次総合計画推進事業については、コロナの影響でキックオフイベントは中止せざるを得なかったが、市報等を活用することで、総合計画が示す将来の都市像や進むべき方向性を市民にPRすることができた。総合計画は、本市の最上位計画であり、その推進は不可欠なものである。今後は計画の実現に向け、各施策の進捗状況を評価し、適正な進行管理を行う。</p> <p>シティプロモーション推進事業は、本市の魅力を市内外にPRし、イメージアップを図ることが必要である。様々な広報手段によるPRや、醸造文化を伝えるお土産品の開発等により、市内外に向けて本市の魅力を発信し、認知度の向上を図るとともに、市民のまちへの愛着や誇りを醸成するきっかけとすることができた。引き続き定住人口や交流・関係人口の増加に向けた取組みを行う。</p> <p>広報推進事業については、即時性が求められる情報をホームページで頻繁に公開・更新するなど、ホームページや市報といった各媒体の特長を活かした広報を行うことにより、ホームページのアクセス数や市報の満足度で目標を達成することができた。今後も、市民の関心度の高い情報を素早く提供できるよう、SNS等も活用した幅広い広報活動を行う。</p>					
	2次評価（令和3年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）					
部等長	<p>全体としては、コロナ禍による事業への影響にも対応し、改善を図りながら事業を推進できた。</p> <p>第7次総合計画について、令和3年度は10年計画の初年度であり、最適な時期に本市の目指すべき姿を市民に広く周知し共有できた。引き続き総合計画に対する市民の理解や共感を得られるよう努め、将来の都市像である「人がまちを育み まちが人を育む チャレンジあふれる都市・はんだ」の実現に向け、事業展開を行っていく。</p> <p>ふるさと新発見事業は、令和4年度よりシティプロモーション推進事業に統合されることになる。住民目線でのPR動画の作成など、市民自らがまちの魅力を掘り起こしPRすることは、まちへの愛着や誇りの醸成につながるほか、市外に向けた有効なPR手法でもある。今後のシティプロモーション推進事業全般においては、これまで以上に市内外へまちの魅力を伝えるため様々な取組みにチャレンジし、さらなる都市イメージの向上に努めていく。</p>					
C						